

地元代表挨拶

『震災の教訓とこれからの商店街』

熊本県商店街振興組合連合会

会長 鈕羽逸朗氏



（※スライド資料をもとに発表が行われました）

これは4月14日、16日に震度7の地震が起こった益城町周辺の地図です。前震では関西まで、本震は関東にまで影響がありました。4月14日から19日の震度5以上の地震は熊本では11回起こっていますが、（それ以下のものも含めると）15日～18日の4日間で2035回の地震が起こりました。この地震により震源地の益城町では多くの住宅が倒壊しました。熊本のシンボル、熊本城にも被害があり、修復には20年、修復費用は数百億かかるともいわれております。

この写真は地震直後の私の自宅です。食器棚から食器が落ちて散乱しています。足元には仏壇が倒れてきました。下駄箱も倒れ、それを乗り越えて家内と避難をして、以後45日くらいは車中泊をいたしました。次の写真は、18日の朝の自分のお店の写真です。14日に前震があり、15日には片付けをしながら2時間くらい店を開けました。余震もひどかったので16日の本震があったときは、周りには全くお店が開いていない状況でした。16、17日は余震がひどく、店を閉め、18日から店を開けました。この時、お客様が数名来られて、「震災直後は本当に休んでいるお店が多かったから開いて良かった」と大変感謝されたことを記憶しております。作業用の長靴とか、サンダルなどが売れました。

次は県振連の事務所の被害の様子です。片付けには経済産業省の方にも手伝っていただいたと聞いており、感謝申し上げます。震源地に近い健軍商店街においては、スーパーが倒壊いたしました。この被害状況を見て、地震が起きたのが昼でなくて良かったと思いました。昼間だったら本当に危機的な被害が出ていたのではないかと、考えただけでゾッといたします。電柱が倒れて建物に突き刺さっていたり、壁が剥がれて隣の店舗へ倒れかかっていたり、店のシャッターが大きく歪んだり



していました。この写真では、木造店舗の建物が倒壊しておりますが、震災直後はここまでは倒れていませんでした。当初は気の毒に思って写真を撮ることができなかったのですが、6月中頃になってこの建物がだんだん水を吸って倒壊して行く様子を見て、やはり記録として残しておくべきと思い、写真を撮りました。商店街の事務所も半壊の状況でした。

健軍以外の商店街の状況ですが、子飼商店街も大変な被害があったと聞いております。また、(地震直後の) 中心部の上通商店街では、余震もひどく商店街を通るには安全面で心配ということで昼間でも人が少なかったそうです。写真でもわかるように中心部にほとんど人が通っていないといった状況でございました。下通も、停電もあって、ほとんど人が歩けなかった状況でした。店の看板が倒壊したり、壁面に亀裂が入ったりしていました。

平成 28 年 12 月 14 日現在、地震による被害は、消防庁の情報によると、熊本県の人的被害が 2781 名、建物被害が 18 万 3447 件、被害総額が 3 兆 7850 億。商工に関連する被害が 8200 億と発表されております。29 年 2 月 13 日現在、建物の被災証明書の申請件数は 20 万 324 件ということで、20 万件を超えておりますし、証明書の発行数が 19 万 3327 件となっております。県振連加盟店の施設、アーケード等の施設の被害総額についてですが、県振連加盟の 19 の商店街で、全体で 3 億 449 万 5000 円の被害が出ました。

震災のその後ですが、地震発生後 2 カ月である程度収まってきているものの、現在も余震が続いております。3 月に入って地震の回数は総計で 4260 回を超えています。熊本地震による犠牲者は現在、直接に亡くなられた方が 50 名、関連死が 147 名、長雨による二次災害で 5 名の方が亡くなられています。

震災後、余震が少し収まった 4 月 22 日頃、地震でほとんど被害の無かった牛深商店街の元理事長で現在商工会議所の会長をされている益田さんへ、炊き出しができないかという打診をいたしました。3 日後に返事をいただき、柱に張り紙を貼ったり、チラシを配ったりして、周囲に知らせました。そして、4 月 30 日の 11 時 30 分より牛深商店街振興組合、牛深協同組合合同で炊き出しを行っていただきました。鯛めしにあおさ湯、魚の煮物、500 食が 1 時間半くらいでなくなり、皆さんに大変感謝されたことを覚えております。この時、連携の大切さを再度認識いたしました。それに続き、復興バザーなども行なっております。また、これは林前経済産業大臣の写真でございますが、震災直後から多くの視察があり、対応に追われる日々でした。



震災直後、健軍商店街では理事会を開き、復興委員会をすぐ立ち上げました。中央会の方から、東北の震災の時に復興委員会を立ち上げ対応したという話を伺い、熊本でも同様にした方がいいのではないかということで、すぐに復興委員会を立ち上げて対応していきま



した。そして、情報収集と申請に向けた勉強会を2～5日に1度ぐらいの頻度で開催しました。商工会議所の方、中央会の方、中小企業基盤整備機構の方、九州経済産業局の方など皆様には勉強会のご指導をいただき、大変お世話になっております。また、この勉強会を経て、復興に向けてグループ補助金の申請を行いました。このグループ補助金は中小企業の業者救済のための補助金で、国県合わせて4分の3の補助金が出る施策です。募集があつてから3カ月間、認定を受けるまでは本当にキツかったです。核店舗のスーパーも一緒にグループ補助金を申請するというので、それが復興計画のほしい8割を担っていて、復興計画が認定されなければ補助が得られないということは最初から聞いていましたし、アドバイザーさんからは宮城の方では最初は復興計画認定されたのが一割しかなかったと聞いていました。認定されなければ商店街の復興が果たせず復興が遅れていくというプレッシャーの中で、この3カ月間は非常に心労を重ねたという記憶があります。

県内のソフト事業としては商店街の賑わい創出事業を利用しました。県内の申請数が98件ありました。これは10分の10の補助金です。皆さん精力的に補助金を受けて、復興に向けて取り組みました。

また、県振連の方に「宮城県女川町と被災後経験した者同士で交流を行いませんか」と河北新聞社を通じてお話がありまして、12月6日「今できることプロジェクト」のパネルディスカッションを宮城県女川町で開催いたしました。事前に県振連から女川町の方に若手3名が視察に行かせていただきました。このパネルディスカッションでは、様々な意見が出されましたが、タイトル通り今できることから少しずつ交流をしていくことを再確認いたしました。

健軍商店街では、復旧に向けて核店舗のスーパーの解体工事が4月29日から始まりました。5月22日中にはアーケードに倒れかかっていた建物部分が取り除かれて、アーケード内の一部交通規制が解除され、通行できるようになりました。この間、余震で揺れが凄かったのと同時に、解体工事の埃も凄かったなと記憶しております。核店舗スーパーの建物の解体は6月15日に終わりましたが、駐車場の解体は11月15日に終了しました。起工式も終わり現在は工事に着工、本年の9月には再びオープンしていただけるようになっております。これはアーケードの工事の様子です。本年29年2月16日に街の中に照明がつかまして、2月20日過ぎにアーケードの工事が完了しました。この



ように健軍商店街では復旧工事が進んでおりますが、熊本商工会議所が12月に行った県の小規模事業者対象の復旧工事についての調査によりますと、建屋について建て替え修理済みは254事業所中47事業所、つまり18.5%に留まっており、まだ復興には時間がかかるとされています。

これから商店街がやっていくこととして、まず教訓として「備える」ということが一番大事

なのではないかと思っています。備えあれば憂いなし、日頃の準備が大切だということで、災害の経験を忘れぬために、常にいつ起きるかわからない災害を意識しながら日々の生活を送ったらどうかとも思いました。また、建物の耐震補強も大変重要でありますし、防災訓練の実施も重要ではないでしょうか。これらの実施のためにはリーダーの育成、防災士の資格取得等を行う必要もあるのではないかと考えておりますし、内閣府の防災情報に注目しておくということも大切なことだと思います。

このマップは、内閣府の平成22年度地域連携型防災活動育成促進モデル事業において、平成23年3月に健軍商店街が医療機関と共に作成したマップですが、大規模地震で機能しなかった面もありました。この反省を生かして、今後色々な災害にも対応できるようなBCP（事業継続計画）を作っていこうと考えています。体験、経験を教訓として伝えていくというのが非常に大事で、記憶ではなくて記録を残して伝えていくということが大事ではないかと思っています。

また、商店街の緊急連絡網の作成ですが、大体どこの商店街でも店の電話番号や会社の電話番号を載せているのですが、自宅の電話番号、各個人の携帯番号などはデータ網として作っていないのですが、それは是非作っておくべきだと思います。震災直後に携帯電話は全然繋がらなくなってしまうのですが、ラインは使えます。私も震災時に大分に行く予定だったのですが、ラインを使って今日は行けないということを伝えました。そういったSNSの活用も絶対必要なのではないかと思います。

一番大事なのは災害対応のリーダーを各商店街で決めていくことだと思います。先ほども言いましたが、各商店街で2人か3人ほど防災士の資格を持ったリーダーを育てて、そして、地震があっても被害の無いところもあるので、被害があるところとないところで連携をしながら今後大規模災害に備えて行けばいいのではないかと考えています。それには行政の皆様方のご支援で防災士の資格のための講習会などを開いていただければ非常にありがたいと思います。またそれを九州の商店街同士、さらには全国の商店街連合会とも連携を広げていくというのが今後において大事なことでないかと思っています。

先ほど桑島社長のお話もあったように、私どもの商店街に市のコミュニティの役割を最大限に生かすということは凄く大事だと思っています。震災後、個店や商店街で多くの情報が集まりました。お客様からの色々な相談もありましたし、行政からの情報もありました。それを最大限に正しく生かすことが必要じゃないかと思っています。

行政の生活支援情報ですが、現在の平成 28 年度の熊本地震の被災者支援制度は第 7 版ということで、7 回も変わっています。こういった行政の情報の変更箇所は、やはり商店街の方で地域住民に正しく伝えていくべきなのではないかなと思います。

ところで、工事の価格ですが、業者によって大きく違うんです。例えば雨漏りの査定が、震災後、瓦が落ちてブルーシートを貼ったのが、うちは 100 万だったとか、うちは 10 万で済んだとか、そういう情報が錯綜していました。正しい業者を選定するための情報を商店街が持って、地域の方たちに知らせるといっても凄く大事だと思っています。

医療関係の情報ですが、震災の時に怪我をしたり病気になったりした方たちが、病院がどこにあるのかがわからない。そういった情報も正しく伝えることが大事だと思っています。また交通情報も、例えば阿蘇方面等ほとんど車が通れない状況だったとかもありますし、支援に行こうとしても、支援物資があるのに道路の事情で持って行けなかったということもあるので、そういった情報も商店街ができればと思います。コミュニティの核としての役割を果たすために、これらの情報を提供することは必要なことではないでしょうか。

健軍商店街では、11 月に健康フェアを行いました。その時に、健康相談以外に税務相談、司法書士、公認会計士、弁護士、不動産鑑定士等の相談コーナーを開催いたしました。弁護士の方がおっしゃるには、建物の中で相談コーナーを開いても皆さん中々相談に行きづらいようで、相談に来る方が少ない。でも商店街だと、通りがかりに「そうだ、相談してみよう」と気軽に相談ができる。もちろん安全性を確保した上にはですが、災害時に商店街がそういった相談コーナーを設ければ、被災した方たちの役に立てるのではないかと考えております。



先ほどもお話ししましたが、震災後に倒壊した核店舗のスーパーさんと一緒にグループ補助金の申請を行いました。その時に売上のことなど、本来は極秘のことをお互いフランクに話しながらやったことで凄く絆が深まったので、今後また核店舗がオープンした時には一緒にイベントなどを開催して、今後の商店街の活性化に繋げていければいいと思っています。

新たな商店街づくりということについてですが、被災した建物の多くは古く、建て替えにともな

う不足業種の誘致や集客可能な施設への変換などが考えられます。蒲島知事が創造的復興とおっしゃっていますが、私も前向きに捉えて、古かった建物が新しくなって、商店街の活性化に利用していければと。これをチャンスとは言いたくありませんが、この機会を捉えてぜひ集客できるような商店街づくりをしていけたらいいなと思っております。

自らができる最大の復興を、ということですが、安全を確認した上でいち早く営業を再開して、被災した方々へ商業を通じて役に立つことが大切であるのではと思っています。また、できるだけ休まずに営業を続けることが大事ですし、そうしていきたいと思っています。健軍商店街においては核店舗が倒壊し、現在の通行量は正直少ないです。再開するまでに全店が努力する必要があるのではないかなと思っております。私が今一番大事だと思っているのは、スーパーに來られたお客さんを繋ぎ止めておくこと。今後スーパーが再建できても、それだけで商店街が活性化するとは私は思っていません。もともとこのスーパーに行っていた方々のライフスタイルは変わってきていると思います。このスーパーがなくなったので、別のところに行っているわけですから。そういったお客様を、今後スーパーが再建された時に急に取り戻せるというわけではないと思うのです。なので、私は今が一番大事であり、各店舗が士気を高めて出来るだけお客様を繋ぎとめて、健軍商店街の活性化に寄与していければなと考えております。

復旧に際して震災後の建て替え及び、修理ですが、現実的に材料費は4割増し位になっていて、人件費も倍ぐらいになっていると聞いております。私は震災直後の臨時総会で再建する建物の金額を提示しました。その時に組合員の皆様方が凄く高いとおっしゃったんです。それが、今現在は、その見積もりを取った時の倍近くになっています。補助金の確定額というのは決まっておりますので、ぜひ、見積もり等を出していただく場合は、需要と供給に合わせて、供給が少なく需要が多いから今後は高くなるという現状を頭に置いていただいて見積もっていただいたらいいじゃないかなと思いました。

最後に、今回の発表に関しまして資料や写真等を提供していただいた方、また、お手伝いをしていただいた方々に対して、感謝を差し上げたいと思います。ご清聴、ありがとうございました。

